

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-52743

(P2010-52743A)

(43) 公開日 平成22年3月11日(2010.3.11)

(51) Int.Cl.
B65D 27/06 (2006.01)F1
B65D 27/06

テーマコード (参考)

A

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2008-217014 (P2008-217014)
(22) 出願日 平成20年8月26日 (2008.8.26)(71) 出願人 000186566
小林クリエイト株式会社
愛知県刈谷市小垣江町北高根 1 1 5 番地
(74) 代理人 100069431
弁理士 和田 成則
(74) 代理人 100130410
弁理士 茅原 裕二
(72) 発明者 杉浦 一広
愛知県刈谷市小垣江町北高根 1 1 5 番地
小林クリエイト株式会社内
(72) 発明者 川島 義弘
愛知県刈谷市小垣江町北高根 1 1 5 番地
小林クリエイト株式会社内

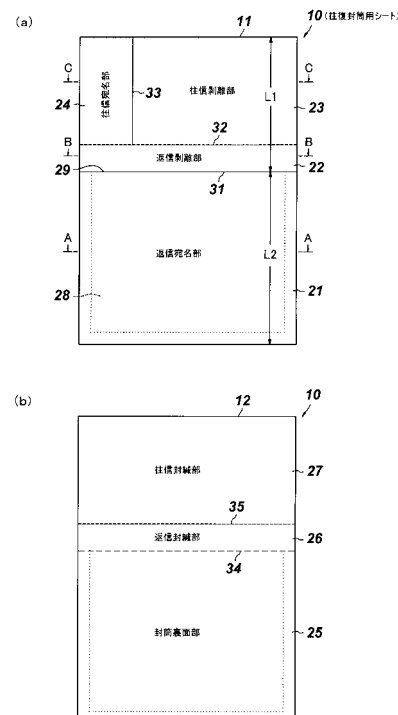
(54) 【発明の名称】 往復封筒用シート

(57) 【要約】

【課題】 往信封筒と返信封筒に兼用でき、往信時に必要な情報を併せて印刷することができる往復封筒用シートを提供する。

【解決手段】 上紙 1 1 に返信宛名部 2 1 と返信剥離部 2 2 と往信剥離部 2 3 を接続し、下紙 1 2 に封筒裏面部 2 5 と返信封緘部 2 6 と往信封緘部 2 7 を接続するとともに、返信宛名部 2 1 と封筒裏面部 2 5 を周縁三辺に沿って接着して封筒開口部 2 9 を形成し、返信剥離部 2 2 と返信封緘部を剥離可能に貼り合わせ、往信剥離部 2 3 と往信封緘部 2 7 を剥離可能に貼り合わせることによって往復封筒用シート 1 0 を構成するようにした。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

上紙と下紙を重ね合わせて構成される往復封筒用シートであって、

上紙に、返信封筒の宛名面になる返信宛名部と、返信宛名部に切り取り線を介して接続された返信封筒の剥離紙になる返信剥離部と、返信剥離部に切り取り線を介して接続された往信封筒の剥離紙になる往信剥離部とが設けられ、

下紙に、往信封筒及び返信封筒の裏面になる封筒裏面部と、封筒裏面部に折り線を介して接続された返信封筒の封緘部になる返信封緘部と、返信封緘部に切り取り線を介して接続された往信封筒の封緘部になる往信封緘部とが設けられており、

返信宛名部と封筒裏面部を周縁三辺に沿って接着して残りの一辺に封筒開口部が形成され、返信剥離部に塗布した剥離層と返信封緘部に塗布した粘着層とが剥離可能に貼り合わされ、往信剥離部に塗布した剥離層と往信封緘部に塗布した粘着層とが剥離可能に貼り合わされている

ことを特徴とする往復封筒用シート。

【請求項 2】

上紙と下紙を重ね合わせて構成される往復封筒用シートであって、

上紙に、返信封筒の宛名面になる返信宛名部と、返信宛名部に切り取り線を介して接続された返信封筒の剥離紙になる返信剥離部と、返信剥離部に切り取り線を介して接続された往信封筒の剥離紙になる往信剥離部及び往信封筒の宛名ラベルになる往信宛名部とが設けられ、

下紙に、往信封筒及び返信封筒の裏面になる封筒裏面部と、封筒裏面部に折り線を介して接続された返信封筒の封緘部になる返信封緘部と、返信封緘部に切り取り線を介して接続された往信封筒の封緘部になる往信封緘部とが設けられており、

返信宛名部と封筒裏面部を周縁三辺に沿って接着して残りの一辺に封筒開口部が形成され、返信剥離部に塗布した剥離層と返信封緘部に塗布した粘着層とが剥離可能に貼り合わされ、往信剥離部に塗布した剥離層と往信封緘部に塗布した粘着層とが剥離可能に貼り合わされ、往信宛名部に交互に隣接塗布した粘着層及び剥離層と往信封緘部に交互に隣接塗布した剥離層及び粘着層とが剥離可能に貼り合わされている

ことを特徴とする往復封筒用シート。

【請求項 3】

往信宛名部に塗布した粘着層及び剥離層と、往信封緘部に塗布した剥離層及び粘着層がそれぞれ縞模様状に配置されている

ことを特徴とする請求項 2 に記載の往復封筒用シート。

【請求項 4】

往信宛名部に塗布した粘着層及び剥離層と、往信封緘部に塗布した剥離層及び粘着層がそれぞれ市松模様状に配置されている

ことを特徴とする請求項 2 に記載の往復封筒用シート。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、往信封筒として使用した後に返信封筒としても使用することができる往復封筒用シートに関する。

【背景技術】**【0002】**

近年、レンタルショップでは、顧客がインターネットを通じてレンタル注文したCDやDVDを顧客の自宅宛に配送するサービス、いわゆるネット宅配レンタルサービスを実施している。このサービスによると、店舗では配送用封筒に返却用封筒を同封してCDやDVD等のディスクを配送し、顧客は視聴し終わったディスクを返却用封筒に入れて郵便ポストに投函して返却するシステムになっている。また、最近では、配送用封筒（往信封筒）と返却用封筒（返信封筒）を兼用できる往復封筒も提案されている（例えば下記の特許

10

20

30

40

50

文献 1 を参照)。

【 0 0 0 3 】

ところで、上記のようなネット宅配レンタルサービスにおいて、店舗ではレンタル注文されたディスクを配送する際に、商品コードや返却期限等を記入したピックアップリストを使用して注文内容と配送内容とを照合するようにしている。また、配送用封筒にサービスの利用案内や新作の紹介等の広告情報を印刷した書類を同封して配送することもある。しかし、従来これらの書類は配送用封筒とは別に印刷して用意していたため、印刷作業が面倒であり、コストも嵩む上、資源の無駄使いであるという問題が指摘されていた。また、別々に用意したピックアップリストと配送用封筒の宛先を見比べながらディスクの封入作業を行わなければならない、誤って別の封筒に違うディスクを入れて配送してしまう誤配が起こる原因になっていた。

10

【 0 0 0 4 】

【特許文献 1】実用新案登録第 3 1 3 9 6 3 6 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 5 】

本発明は上記のような問題を解決するためになされたものであり、その目的とするところは、往信封筒と返信封筒に兼用される往復封筒用シートにおいて、往信時に関連する必要な情報を同時に印刷することができる往復封筒用シートを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

20

【 0 0 0 6 】

上記の目的を達成するため、本発明は、上紙と下紙を重ね合わせて構成される往復封筒用シートであって、上紙に、返信封筒の宛名面になる返信宛名部と、返信宛名部に切り取り線を介して接続された返信封筒の剥離紙になる返信剥離部と、返信剥離部に切り取り線を介して接続された往信封筒の剥離紙になる往信剥離部とが設けられ、下紙に、往信封筒及び返信封筒の裏面になる封筒裏面部と、封筒裏面部に折り線を介して接続された返信封筒の封緘部になる返信封緘部と、返信封緘部に切り取り線を介して接続された往信封筒の封緘部になる往信封緘部とが設けられており、返信宛名部と封筒裏面部を周縁三辺に沿って接着して残りの一辺に封筒開口部が形成され、返信剥離部に塗布した剥離層と返信封緘部に塗布した粘着層とが剥離可能に貼り合わされ、往信剥離部に塗布した剥離層と往信封緘部に塗布した粘着層とが剥離可能に貼り合わされていることを特徴とするものである。

30

【 0 0 0 7 】

また、本発明は、上紙と下紙を重ね合わせて構成される往復封筒用シートであって、上紙に、返信封筒の宛名面になる返信宛名部と、返信宛名部に切り取り線を介して接続された返信封筒の剥離紙になる返信剥離部と、返信剥離部に切り取り線を介して接続された往信封筒の剥離紙になる往信剥離部及び往信封筒の宛名ラベルになる往信宛名部とが設けられ、下紙に、往信封筒及び返信封筒の裏面になる封筒裏面部と、封筒裏面部に折り線を介して接続された返信封筒の封緘部になる返信封緘部と、返信封緘部に切り取り線を介して接続された往信封筒の封緘部になる往信封緘部とが設けられており、返信宛名部と封筒裏面部を周縁三辺に沿って接着して残りの一辺に封筒開口部が形成され、返信剥離部に塗布した剥離層と返信封緘部に塗布した粘着層とが剥離可能に貼り合わされ、往信剥離部に塗布した剥離層と往信封緘部に塗布した粘着層とが剥離可能に貼り合わされ、往信宛名部に交互に隣接塗布した粘着層及び剥離層と往信封緘部に交互に隣接塗布した剥離層及び粘着層とが剥離可能に貼り合わされていることを特徴とする。

40

【 0 0 0 8 】

本発明の往復封筒用シートにおいて、往信宛名部に塗布した粘着層及び剥離層と、往信封緘部に塗布した剥離層及び粘着層がそれぞれ縞模様状に配置されている構成や、往信宛名部に塗布した粘着層及び剥離層と、往信封緘部に塗布した剥離層及び粘着層がそれぞれ市松模様状に配置されている構成を採用しても良い。

【発明の効果】

50

【 0 0 0 9 】

本発明によれば、上述したようなネット宅配レンタルサービスにおけるディスク送付用封筒として好適に使用することができる。すなわち、返信宛名部と封筒裏面部をＣＤやＤＶＤ等の商品を収容できるサイズに設定し、往信剥離部にピックアップリストや広告情報を印刷するようにする。これにより、封筒とは別に書類を用意する必要が無く、配送時の印刷作業を簡素化できるとともにコスト削減を図ることができる。また、商品の封入作業の時に、封筒に印刷されたピックアップリストを見ながら同じ封筒内に商品を封入すれば良いため、誤って別の商品を配送してしまうといった誤配を確実に防止することができる。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 0 】

10

以下、本発明の実施形態を図面に基づいて説明する。

【 0 0 1 1 】

始めに、本発明の往復封筒用シートの構成について、図１～図３を参照しながら説明する。図１は往復封筒用シートの外観図、図２は同シートの分解図、図３は同シートの断面図である。

【 0 0 1 2 】

図１に示すように、本実施形態の往復封筒用シート１０は、往信封筒と返信封筒に兼用できるようにした帳票であり、上紙１１と下紙１２の２枚の用紙を重ね合わせ、両者を部分的に貼り合わせることで構成されている。

【 0 0 1 3 】

20

図１（ａ）において、上紙１１はクラフト紙や上質紙などの封筒用紙からなり、この１枚の用紙に返信宛名部２１と、返信剥離部２２と、往信剥離部２３と、往信宛名部２４が設けられている。

【 0 0 1 4 】

返信宛名部２１は、往復封筒用シート１０を返信封筒にしたときの宛名面に相当する部分であり、封筒内に入れる内容物に合わせてその大きさが設定される。返信剥離部２２は、返信封筒の封緘時に剥離される剥離紙に相当する部分であり、切り取り線として設けたスリット３１を介して返信宛名部２１に接続されている。往信剥離部２３は、往信封筒の封緘時に剥離される剥離紙に相当する部分であり、切り取り線として設けたミシン目３２を介して返信剥離部２２に接続されている。往信宛名部２４は、往信封筒の宛名面に貼り付ける宛名ラベルに相当する部分であり、切り取り線として設けたスリット３３を介して往信剥離部２３に接続され、ミシン目３２を介して返信剥離部２２にも接続されている。なお、返信剥離部２２と往信剥離部２３を合わせた縦の長さＬ１は返信宛名部２１の縦の長さＬ２よりも短く設定されている。

30

【 0 0 1 5 】

図１（ｂ）において、下紙１２は上紙１１と同一サイズのクラフト紙や上質紙などの封筒用紙からなり、この用紙には封筒裏面部２５と、返信封緘部２６と、往信封緘部２７が設けられている。

【 0 0 1 6 】

40

封筒裏面部２５は、往信封筒及び返信封筒における封筒裏面に相当する部分であり、返信宛名部２１と同じ大きさに設定される。返信封緘部２６は、返信封筒を封緘する際のフラップに相当する部分であり、折り線として設けたプレスミシン目３４を介して封筒裏面部２５に接続されている。往信封緘部２７は、往信封筒を封緘する際のフラップに相当する部分であり、切り取り線として設けたミシン目３５を介して返信封緘部２６に接続されている。なお、往信封緘部２７の大きさは往信剥離部２３と往信宛名部２４を合わせた大きさと同じである。

【 0 0 1 7 】

図２（ａ）に示すように、上紙１１の裏面を見ると、返信宛名部２１には糊類が何も塗布されていないが、返信剥離部２２と往信剥離部２３には全域にわたってシリコーンを主成分とするメジウムやニス等のシリコーン系剥離剤を塗布した剥離層４１が設けられてい

50

る。また、往信宛名部 2 4 には、接着力の弱い弱粘着剤を塗布した粘着層 4 2 と、シリコン系剥離剤を塗布した剥離層 4 3 とが交互に隣接して設けられている。粘着層 4 2 を構成する弱粘着剤としては、貼付後に手で容易に剥がせる程度の接着力を有するものであれば良く、例えばアクリル酸エステル共重合体からなる再剥離粘着糊等を使用することができる。なお、本実施形態では粘着層 4 2 と剥離層 4 3 がそれぞれ縦縞模様状に配置されているが、往信宛名部 2 4 を往信封筒に貼り付けた後で剥がれにくくするためには、図のように粘着層 4 2 を往信宛名部 2 4 の両端に配置するのが好ましい。

【0018】

図 2 (b) に示すように、下紙 1 2 の表面を見ると、封筒裏面部 2 5 には周縁三辺に沿って接着剤を塗布した接着層 4 4 が設けられている。接着層 4 4 を構成する接着剤としては、貼付後に剥がれることがないような強い接着力を有するものが好ましく、例えば酢酸ビニル・アクリル酸エステル共重合水性エマルジョンからなる強接着粘着糊を使用することができる。また、返信封緘部 2 6 と往信封緘部 2 7 の一部の領域（往信剥離部 2 3 に対応する領域）には、いずれも往信宛名部 2 4 と同じ弱粘着剤を塗布した粘着層 4 5 が設けられている。さらに、往信封緘部 2 7 の残りの領域（往信宛名部 2 4 に対応する領域）には、往信宛名部 2 4 とは逆の順序で剥離層 4 6 と粘着層 4 7 がそれぞれ縦縞模様状に配置されている。

【0019】

上紙 1 1 と下紙 1 2 を重ねて貼り合わせると、図 3 (a) に示すように、返信宛名部 2 1 と封筒裏面部 2 5 との接合断面では、接着層 4 4 によって周縁三辺が接着されてその内側に封筒収容部 2 8 が形成され、残りの一辺に封入口となる封筒開口部 2 9（図 1 を参照）が形成される。また、図 3 (b) に示すように、返信剥離部 2 2 と返信封緘部 2 6 との接合断面では、上紙裏面の剥離層 4 1 と下紙表面の粘着層 4 5 とが剥離可能に疑似接着される。さらに、図 3 (c) に示すように、往信剥離部 2 3 と往信封緘部 2 7 との接合断面では、上紙裏面の剥離層 4 1 と下紙表面の粘着層 4 5 とが剥離可能に疑似接着され、往信宛名部 2 4 と往信封緘部 2 7 との接合断面では、上紙裏面に縞模様状に配置された粘着層 4 2 及び剥離層 4 3 と下紙表面に縞模様状に配置された剥離層 4 6 及び粘着層 4 7 とが剥離可能に疑似接着される。

【0020】

本実施形態の往復封筒用シートは以上のように構成されており、以下その使用方法について、図 4 ~ 図 10 を参照しながら説明する。なお、ここではネット宅配レンタルサービスにおいて往復封筒用シートを使用する例を挙げて説明するが、この往復封筒用シートの用途は以下の例に限られない。

【0021】

ネット宅配レンタルサービスを利用して顧客が DVD をレンタル注文すると、レンタルショップでは注文された DVD をこの往復封筒用シート 10 を用いて顧客の自宅宛に配送する。

【0022】

まずレンタルショップでは、顧客の注文内容と配送内容とを照合するために、図 4 に示すように往復封筒用シート 10 の往信剥離部 2 3 に商品コード、タイトル名、返却期限、金額等を記入したピックアップリストを印刷する。また、往信宛名部 2 4 に DVD の配送先となる顧客の郵便番号、住所、氏名等の宛先を印字する。さらに、返信宛名部 2 1 に DVD の返却先となる店舗の郵便番号、住所、名称等の宛先を印字する。ここで、往信剥離部 2 3 と往信宛名部 2 4 と返信宛名部 2 1 はすべて往復封筒用シート 10 の表面に集約されており、これらの印刷はプリンタの片面印刷で対応できるため、迅速な処理が行える。なお、返信宛名部 2 1 の宛先については、その都度印字するのではなく予め印字しておいても良い。

【0023】

次に、店員は注文された DVD 50, 50, ... を封筒開口部 2 9 から封筒収容部 2 8 内に封入する作業を行う。このとき、封筒の往信剥離部 2 3 に印刷されたピックアップリスト

10

20

30

40

50

を確認しながら同じ封筒内に商品を封入すれば良いので、誤って別の商品を配送してしまうトラブルを確実に防止できる。そして、封入作業が終わったら、次のようにして封緘作業を行う。まず、図 5 に示すように、往復封筒用シート 10 からピックアップリストを剥がす。ピックアップリストが印刷された往信剥離部 23 をめくると、剥離層 41 と粘着層 45 の疑似接着面を介して剥離される。剥がし取ったピックアップリストは店舗に控えとして保管しても良いし、顧客への納品書として封筒収容部 28 内に同封して配送しても良い。

【0024】

また、往復封筒用シート 10 から往信宛名部 24 を剥がし取り、剥がし取った往信宛名部 24 を裏面の往信封緘部 27 に貼り付ける。往信宛名部 24 をめくると、互い違いに配置された粘着層 42 及び剥離層 43 と剥離層 46 及び粘着層 47 との疑似接着面を介して剥離され、往信宛名部 24 をその裏面に露出した粘着層 42 によって往信封緘部 27 に貼り付けることができる。なお、往信封緘部 27 が折り返されることを考慮して、往信宛名部 24 は往信封緘部 27 の宛名面に逆さまにして貼り付けるようにする。

【0025】

そして、図 6 に示すように、往復封筒用シート 10 の裏面に設けられたプレスミシン目 34 を山折りして折り返し、返信宛名部 21 の上に往信封緘部 27 を貼り合わせる。往信封緘部 27 の裏面には往信剥離部 23 と往信宛名部 24 を剥がし取った後に粘着層 45, 47 が露出するので、この粘着層 45, 47 によって往信封緘部 27 が返信宛名部 21 に貼り付けられる。これにより、封筒開口部 29 を往信封緘部 27 で封緘した往信封筒 13 が完成し、往信宛名部 24 に表示された顧客の自宅宛に DVD 50, 50, ... を配送することができる。

【0026】

これに対して、往信封筒 13 を受け取った顧客は、図 7 に示すように往信封筒 13 を開封する。ここで、往信封緘部 27 は手で剥がせる程度の弱い接着力の粘着層 45, 47 で貼り付いているため、往信封緘部 27 をめくるだけで返信宛名部 21 から簡単に剥がれ、往信封筒 13 を開封することができる。そして、図 8 に示すように、開封した往信封筒 13 に収容されている DVD 50, 50, ... を封筒開口部 29 から取り出し、注文した作品を視聴することができる。

【0027】

視聴が終わると DVD 50 を返却するが、その返却方法は次のようにして行う。まず図 9 に示すように、開封した往信封筒 13 のミシン目 35 を切り取って往信封緘部 27 を切り離す。次に、返却する DVD 50 を封筒開口部 29 から封筒収容部 28 内に封入し、往信封筒 13 から返信剥離部 22 を剥がし取る。返信剥離部 22 をめくると、剥離層 41 と粘着層 45 の疑似接着面を介して返信封緘部 26 から剥離される。

【0028】

そして、図 10 に示すように、封筒裏面に設けられたプレスミシン目 34 を再度山折りして折り返し、返信宛名部 21 の上に返信封緘部 26 を貼り合わせる。返信封緘部 26 の裏面には返信剥離部 22 を剥がし取った後に粘着層 45 が露出するので、この粘着層 45 によって返信封緘部 26 が返信宛名部 21 に貼り付けられる。これにより、封筒開口部 29 を返信封緘部 26 で封緘した返信封筒 14 が完成し、この返信封筒 14 をそのまま郵便ポストに投函すれば、返信宛名部 21 に表示された店舗宛に DVD 50 を返却することができる。

【0029】

このように、本発明の往復封筒用シート 10 を利用すれば、往信封筒 13 に DVD 50 を封入して配送した後に、同じ封筒を返信封筒 14 に変形させて兼用することによって DVD 50 を返却することができる。

【0030】

最後に、本発明の往復封筒用シートの変形例について、図 11 と図 12 に基づいて説明する。

【0031】

上述した実施形態では、往信宛名部 2 4 の粘着層 4 2 及び剥離層 4 3 と往信封緘部 2 7 の剥離層 4 6 及び粘着層 4 7 とをそれぞれ相対する縞模様状に配置したが、これに代えて図 1 1 に示すような市松模様状に配置しても良い。このような形状にすると、接着力のない剥離層 4 3 と剥離層 4 6 が連続しなくなり、粘着層 4 2 と粘着層 4 7 がそれぞれ細かく点在するようになる。したがって、貼り付け時に皺の発生を防ぎ、往信宛名部 2 4 及び往信封緘部 2 7 をより確実に貼り付けることができる。

【 0 0 3 2 】

また、上述した実施形態において、上紙 1 1 に往信宛名部 2 4 を設けて往信封筒 1 3 に宛名ラベルとして貼り付けるようにしたが、この往信宛名部 2 4 は必ずしも設ける必要はない。例えば図 1 2 に示すように、往信宛名部 2 4 を無くし、その部分をすべて往信剥離部 2 3 にして剥離層 4 1 と粘着層 4 5 の疑似接着構造にしても良い。そして、印刷時にはプリンタの両面印刷機能を利用して、裏面の往信封緘部 2 7 に返信先の宛名を直接印字するようにする。このようにすれば、往信封筒 1 3 の作成時に宛名ラベルを貼り付ける手間が省けるので、配送作業が簡単になる。また、往信宛名部 2 4 の分だけ印刷スペースが広がるので、ピックアップリスト以外に例えばサービスの利用案内や近日入荷予定の作品紹介等の広告情報を印刷し、封緘時に剥がし取った往信剥離部 2 3 を往信封筒 1 3 に同封して配送することもできる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 3 3 】

【図 1】往復封筒用シートの外観図で、(a) は同シートを表側から見た図、(b) は同シートを裏側から見た図である。

【図 2】往復封筒用シートの分解図で、(a) は上紙を裏側から見た図、(b) は下紙を表側から見た図である。

【図 3】往復封筒用シートの断面図で、(a) は図 1 の A - A 線断面図、(b) は図 1 の B - B 線断面図、(c) は図 1 の C - C 線断面図である。

【図 4】往復封筒用シートに印刷した後の状態を示す説明図である。

【図 5】往復封筒用シートから往信剥離部と往信宛名部を剥がし取る時の状態を示す説明図である。

【図 6】往信封筒を封緘する時の状態を示す説明図である。

【図 7】往信封筒を開封する時の状態を示す説明図である。

【図 8】往信封筒から D V D を取り出す時の状態を示す説明図である。

【図 9】往信封筒から往信封緘部を切り離す時の状態を示す説明図である。

【図 1 0】返信封筒を封緘する時の状態を示す説明図である。

【図 1 1】往復封筒用シートの他の構成例を示す図で、(a) は往信宛名部を裏側から見た図、(b) は往信封緘部を表側から見た図である。

【図 1 2】往復封筒用シートのさらに他の構成例を示す図である。

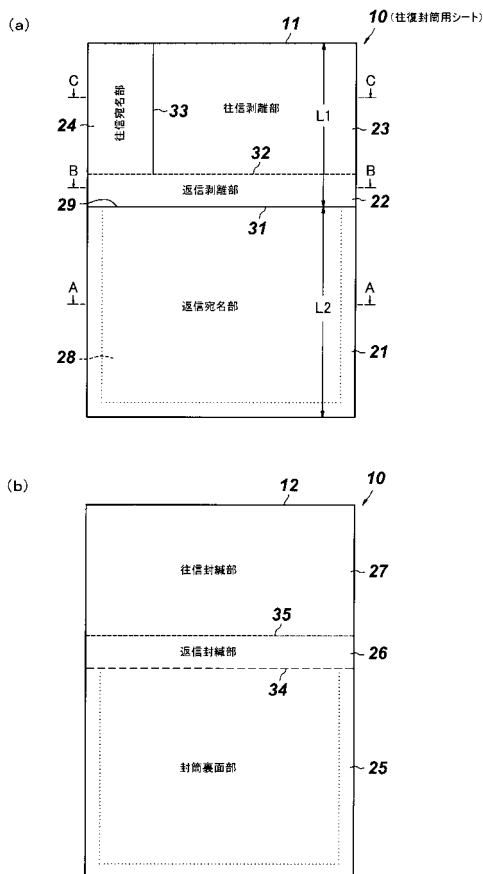
【符号の説明】

【 0 0 3 4 】

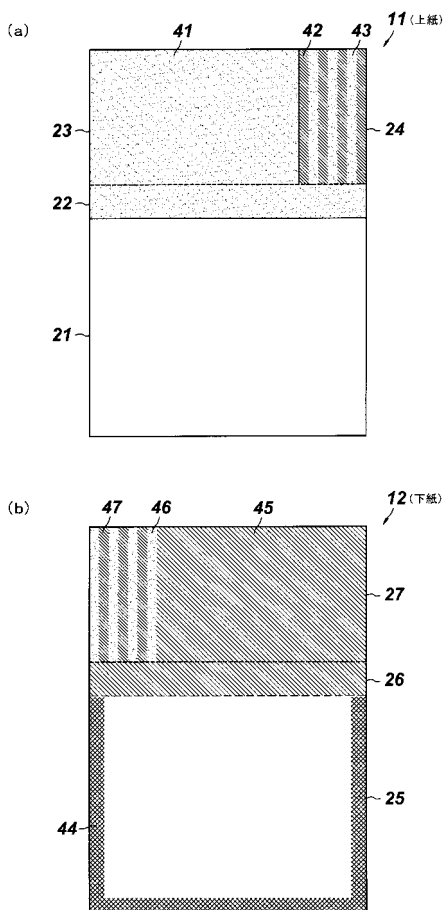
- 1 0 往復封筒用シート
- 1 1 上紙
- 1 2 下紙
- 1 3 往信封筒
- 1 4 返信封筒
- 2 1 返信宛名部
- 2 2 返信剥離部
- 2 3 往信剥離部
- 2 4 往信宛名部
- 2 5 封筒裏面部
- 2 6 返信封緘部
- 2 7 往信封緘部

- 2 8 封筒収容部
- 2 9 封筒開口部
- 3 1 スリット
- 3 2 ミシン目
- 3 3 スリット
- 3 4 プレスミシン目
- 3 5 ミシン目
- 4 1 剥離層
- 4 2 粘着層
- 4 3 剥離層
- 4 4 接着層
- 4 5 粘着層
- 4 6 剥離層
- 4 7 粘着層

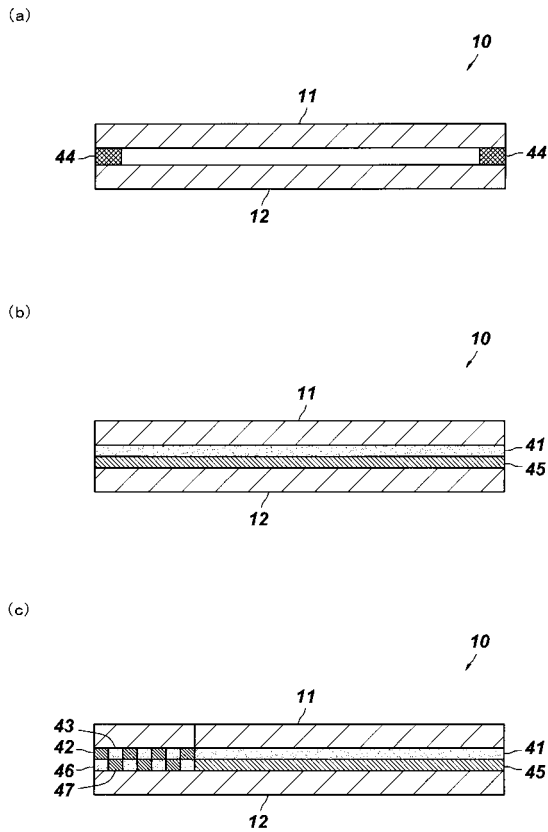
【図 1】



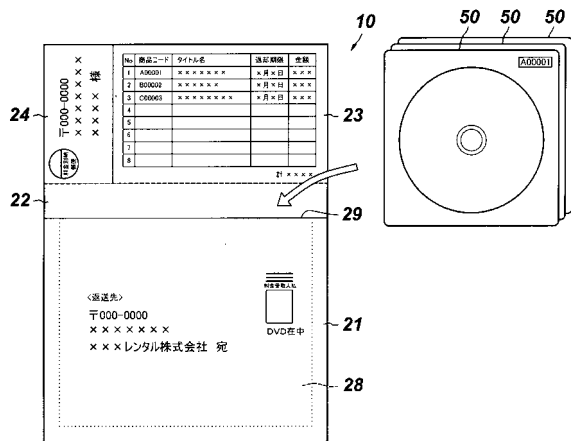
【図 2】



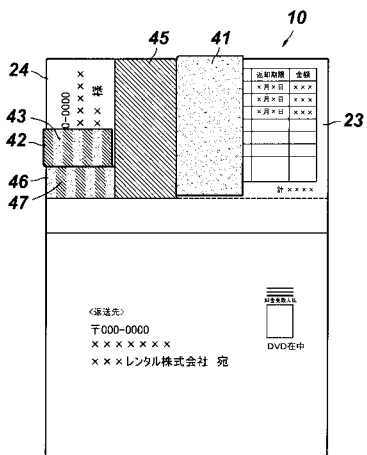
【図 3】



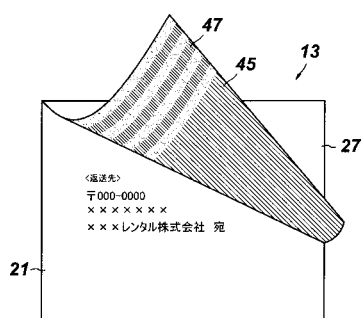
【図 4】



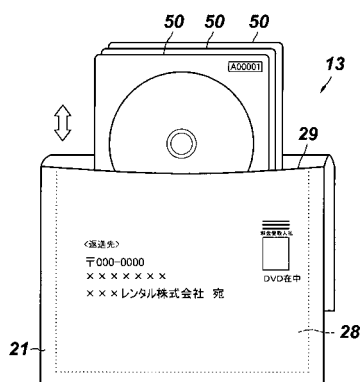
【図 5】



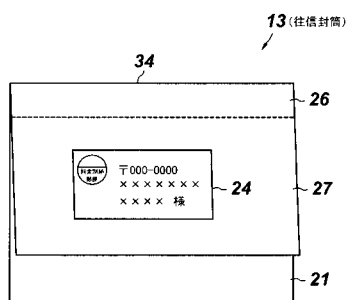
【図 7】



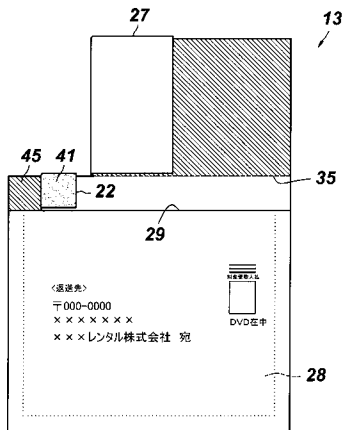
【図 8】



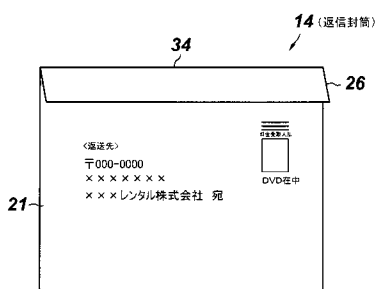
【図 6】



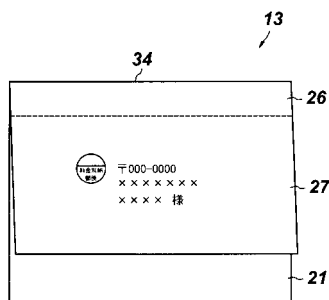
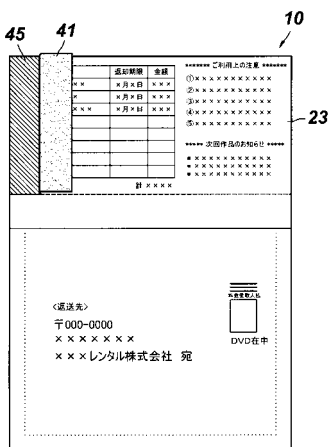
【図 9】



【図 10】



【図 12】



【図 11】

